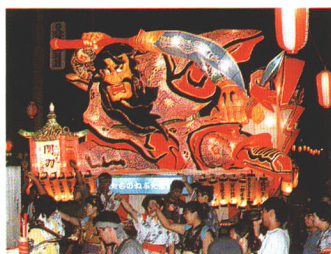




# 湧き上がる 熱き想い。



## NAGANUMA FESTIVAL



各々が趣向を凝らした絵柄が書き込まれ、たぎるような生命を与えられたねぶた、ねぶたは、人々の熱い想いと一体となり、ひとつの生き物のように躍り、うねり、歓喜の声を上げながら疾走していく。誰に促されたわけでもない。見物客たちが、一緒に跳ね出す。親と、ふとはぐれてしまったらしい子供も、近くの大人たちと笑顔を交わしている。「祭り」の時は、町の子みんなが自分の子供だから……」そんな話し声を、耳にした。

激しい踊り、鮮やかな色彩、子供の笑顔、心から楽しむ見物客。その一つひとつが、満ち足りた時間を創り出していく。人々がみな華やいで、それでいて、どこかほっとするような瞬間が、ここにある。

祭りの後、ねぶた、ねぶたは取壊される。しかしその時すでに、次の祭りは始まっている。一人ひとりの心のスクリーンに、一年後の町の華やぎを映し出しながら――。